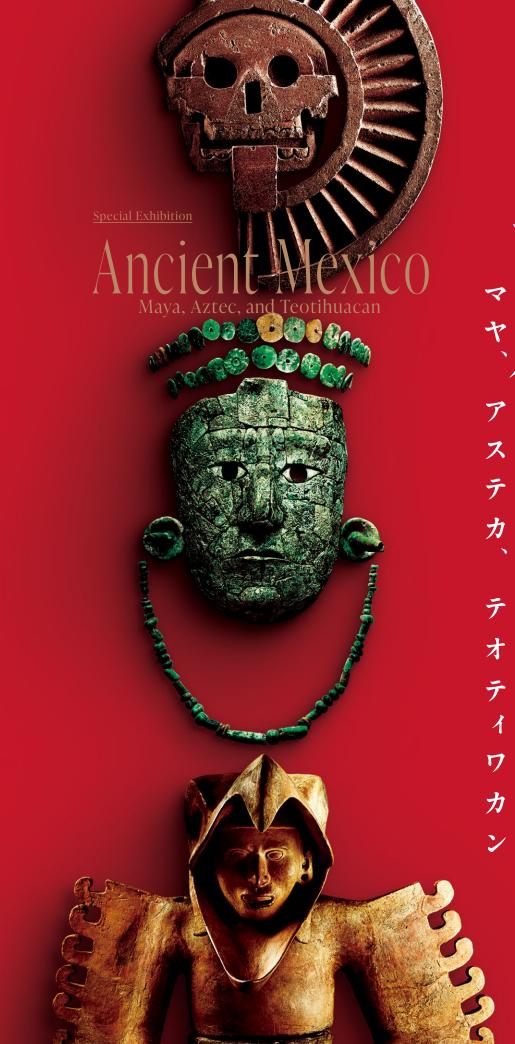
祈り、畏れ、捧げた。



アレスリリース Press Release 为 别 是

マヤ、アステカ、テオティー

メキシコには35もの世界遺産があり、なかでも高い人気を誇るのが、古代都市の遺跡群です。前15世紀から後16世紀のスペイン侵攻までの3千年以上にわたり、多様な環境に適応しながら、独自の文明が花開きました。本展では、そのうち「マヤ」「アステカ」「テオティワカン」という代表的な3つの文明に焦点をあてます。

前1200年頃から広範な地域に栄え、暦や文字など高度な知識を有する王や貴族が中心となって、交易と戦争を繰り広げたマヤ文明。1325年に首都テノチティトラン(現メキシコシティ)を築き、軍事力と貢納制度を背景に繁栄を謳歌したアステカ文明。前1世紀から後6世紀までメキシコ中央高原に栄え、「太陽のピラミッド」「月のピラミッド」「羽毛の蛇ピラミッド」を擁する巨大な計画都市を築いたテオティワカン文明。

火山の噴火や地震、干ばつなど厳しい自然環境のなか、人々は神を信仰し時に 畏怖しながら、王と王妃の墓、大神殿、三大ピラミッドなど各文明を代表する壮大 なモニュメントを築きました。本展では、普遍的な神と自然への祈り、そして多様 な環境から生み出された独自の世界観と造形美を通して、古代メキシコ文明の 奥深さと魅力に迫ります。

みどこ

1. マヤの「赤の女王」、奇跡の初来日

マヤの代表的な都市国家パレンケの黄金時代を築いたパカル王の妃とされるのが、赤い辰砂に覆われて見つかった通称「赤の女王」(スペイン語で「レイナ・ロハ」)です。その墓の出土品を、メキシコ国内とアメリカ以外で初めて公開します。パカル王の息子と孫、ひ孫に関連する遺物もあわせ、200年にわたる王朝一族の物語を浮き彫りにします。

2. 古代メキシコの至宝約140件が一挙に集結

考古と民族資料の宝庫であるメキシコ国立人類学博物館をはじめ、アルベルト・ルス・ルイリエ パレンケ遺跡博物館、テンプロ・マヨール博物館、テオティワカン考古学ゾーンなど、メキシコ国内の主要博物館から厳選した約140件を、近年の発掘調査の成果を交えてご紹介します。

3. 世界遺産の魅力を体感できる展示空間

パレンケのパカル王と王妃(赤の女王)の墓、アステカの大神殿(テンプロ・マヨール)、 テオティワカンの三大ピラミッドなど、メキシコが世界に誇る古代都市遺跡の魅力を、 映像や臨場感あふれる再現展示で存分にお伝えします。

展覧会構成

第1章—古代メキシコへのいざない

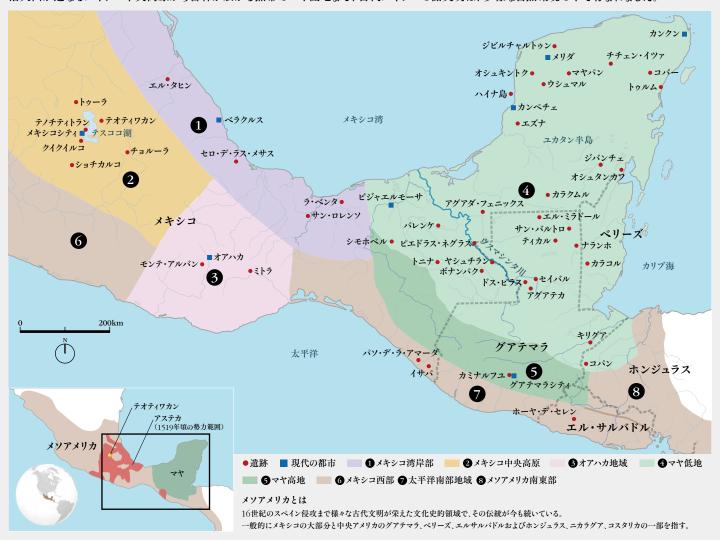
第2章――テオティワカン 神々の都

第3章―マヤ 都市国家の興亡

第4章—アステカ テノチティトランの大神殿

本展関連地図 · 年表

活火山が連なるメキシコ中央高原から密林が広がる熱帯のマヤ低地まで、古代メキシコの諸文明は、多様な自然環境の下で育まれました。



	2000	BC AD	AD 250		950		1521	
時代区分	先古典期		古典期		後古	典期	スペイン植民地時代	
	に人類進出(前20000?) ココシの栽培化(前7000~) オルメ	カの影響広がる(前1400	テオティワカンの影響広がる(3世紀~) 5(前1400~前400) 各よ		地都市の交流		コルテス メキシコ上陸 (1519) アステカの影響広がる(1428~)	
メキシコ湾岸部		メカ 前400 ロレンソ(前1400~前100 ●ラ・ベンタ(前800~前						
メキシコ中央高原		前100 ●テオテイ	テオティワカン ワカン(前100~後550) 太陽のピラミッド、J 羽毛の蛇ピラミッド		800 トルテカ •トゥーラ(800~1150	>-	5 アステカ 1521 •テノチティトラン(1325~1521) 三国同盟を結び、 領土を拡大(1428)	
ソ ア オアハカ 地域	前1400 サポテカ、ミシュテカ ●モンテ・アルバン(前500~後800)						1521	
リカ	前1200			•	マヤ		169	
		グアダ・フェニックス 11200 ~ 前700)	・パレンケ (200~800)	パカル王則赤の言		スペイン	から1697年にかけてメソアメリカ各地が に併合されていくが、その文化伝統は となく、現代にも息づいている。	
					カラクムル王との球技 (727 チェン・イツァ(700~1100)	頃)	衰退、北部に中心が移る(800〜900)	
					トルテカとの交 セノーテの宗孝			
世界			ローマ帝国 コロッセオ	唐の最盛期(7	唐の最盛期(7世紀)		コロンプス アメリカ大陸到達 (1492)	
日本	縄文	弥生	古墳		良平安	鎌倉	南北朝/室町/安土桃山 江戸	

前1500年頃、メキシコ湾岸部に興ったオルメカ文明は、メソアメリカで展開する多彩な文明のルーツともいわれます。 広大な自然環境のなかで人々の暮らしを支えたのは、トウモロコシをはじめとする栽培植物と野生の動植物でした。 やがて、天体観測に基づく正確な暦が生み出され、豊穣と災害をもたらす神々への祈りや畏れから様々な儀礼が発達し、生贄が捧げられました。本章では、オルメカ文明の象徴的な一作品を紹介するとともに、「マヤ」「アステカ」「テオティワカン」に通底する4つのキーワードを解説します。

オルメカ様式の石偶

オルメカ文明、前1000~前400年 セロ・デ・ラス・メサス出土 メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

オルメカ文明からは、儀礼と結びついた王権や多くの神々の 概念など、その後のメソアメリカ諸文明に様々な要素が受け 継がれました。この幼児像の顔には人間とジャガーの特徴 が併せて表現されています。



トウガラシやトマトなどと並び、新大陸を代表する栽培植物。 その起源は、前7000年頃にさかのぼります。長期間にわたる遺伝的変化を経て主食になると、政治や宗教においても重要な意味をもちました。人間はトウモロコシからつくられたという創世神話もあるほどです。 農業には雨季と乾季の予測が重要で、人々は熱心に天体の観測を行なっていました。太陽、月、金星そして日食や月食の周期を正確に把握し、365日の太陽暦や260日の宗教暦など、様々な暦を生み出しました。

3 球技

オルメカ文明以前から現代に至るまで、ゴムボールを使った多様なゲームが専用の球技場で行なわれてきました。人身供儀を伴う宗教儀礼、外交使節を迎えての儀式、賭けの対象ともなるスポーツや娯楽など、球技には多くの意味合いがあります。

球技をする人の上偶

マヤ文明、600~950年

メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

大きく重いゴムボールを使った球技は危険 も伴い、この土偶にあるような大きな防具を 腰のまわりに着けていました。



びんしん く ぎ **人身供犠**

太陽、月、トウモロコシ、人間……古代メキシコの世界観では、あらゆる生命体は、神々の働きと犠牲により存在します。それ故、自然界の動植物そして人間も、世界の存続のため自ら身を捧げました。残酷にもみえる儀礼は、こうした利他精神に支えられていたのです。

テオティワカンは海抜2300mのメキシコ中央高原にある都市遺跡です。死者の大通りと呼ばれる巨大空間を中心に、ピラミッドや儀礼の場、官僚の施設、居住域などが整然と建ち並んでいました。太陽や月のピラミッドはまさに象徴的な存在です。スペイン侵攻以前から話されていたナワトル語で「神々の座所」を意味するテオティワカンは、当時の民族や言語も未解明な謎の多い文明ですが、美術や建築様式はその後も継承されます。本章では、近年の発掘調査や研究成果をもとに、巨大な計画都市の全貌を明らかにします。

太陽のピラミッド





太陽のピラミッド ®Secretaría de Cultura-IN<u>AH-MEX</u>

貸出画像②

200年頃建造。アメリカ大陸最大級のピラミッドで、底 辺223m四方、高さ64m。「火」「戦い」「天空」を象徴 するとされます。

テオティワカン文明、300~550年

テオティワカン、太陽のピラミッド、太陽の広場出土

メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

メキシコ先住民の世界観では太陽は沈んだ(死んだ)のち、夜明けと ともに東から再生すると信じられていました。この作品は地平線に沈 んだ夜の太陽を表わすと考えられています。復元すると直径1.5mに もなる大型の石彫です。

月のピラミッド



月のピラミッド ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Mauricio Marat

100年頃より増築を繰り返し、400年頃には底辺147×130m、高さ43mに。「水」「豊穣」「大地」を象徴するとされます。



テオティワカン文明、200〜250年 テオティワカン、月のピラミッド、埋葬墓6出土 テオティワカン考古学ゾーン蔵 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Jorge Pérez de Lara Elias

月のピラミッドの埋葬墓で12人の生贄の骨とともに発見された、象徴的な奉納品。胴体は蛇が石とヒスイ輝石岩の小片により、口と目は貝殻と黄鉄鉱の小ピースで形作られています。

羽毛の蛇ピラミッド



羽毛の蛇ピラミッド

200年頃建造。 底辺65m四方、高さ23m。「金星」を象徴します。



テオティワカン文明、200~250年 テオティワカン、羽毛の蛇ピラミッド出土 テオティワカン考古学ゾーン蔵 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Jorge Pérez de Lara Elías

シパクトリ神の頭飾り石彫

テオティワカン文明、200~250年 テオティワカン、羽毛の蛇ピラミッド出土 テオティワカン考古学ゾーン蔵 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Jorge Pérez de Lara Elías

羽毛の蛇神とシパクトリ神の頭飾りはともに王権の象徴でした。 これら巨大な石彫で飾られた羽毛の蛇ピラミッドは、全体が王の権力や冠に込めた権威を表わす、メソアメリカで最初の大モニュメントだったのです。

都市の拡がりと多様性



貸出画像3

嵐の神の壁画

テオティワカン文明、350~550年 テオティワカン、サクアラ出土 メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaria de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

テオティワカンでは、集合式住居群や公共建造物、あるいは儀礼施設に 色彩豊かな壁画が数多く描かれ、都市空間を彩っていました。

息形土器



テオティワカン文明、250~550年 テオティワカン、ラ・ベンティージャ出土

メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

多くの貝が貼り付けられた、鳥の形をかたどった土器。メキシコ湾岸地域 との交易で貝などを手に入れていた商人の墓からの出土品です。

マヤは前1200年頃から後16世紀までメソアメリカー帯で栄えた文明であり、後1世紀頃には王朝が成立しました。都市間の交易や交流、時には戦争を通じて大きなネットワーク社会を形成しました。王や貴族はピラミッドなどの公共建築や集団祭祀、精緻な暦などに特徴をもつ力強い世界観を有する王朝文化を発展させました。本章では、マヤの文化的発展と王朝史に注目します。特に王朝美術の傑作と名が高い、「赤の女王のマスク」をはじめとする王妃の墓の出土品を本邦初公開します。

世界観と知識

きんせいしゅうき たいようれき あら せきちょう 金星周期と太陽暦を表わす石彫

マヤ文明、800~1000年 チチェン・イツァ、金星の基壇出土 ユカタン地方人類学博物館 カントン宮殿蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX

マヤ人は、金星を戦争、狩り、破壊などを象徴する重要な星として観測しました。この作品はチチェン・イツァの金星の基壇を飾っていた彫刻で、図像には中央メキシコの影響がみられます。584日の金星の周期の5回分が、365日の太陽暦の8年に当たることが示されています。



マヤ世界に生きた人々











貸出画像⑤(写真中央の「支配者層の土偶」のみ)

(写真左から)戦士の土偶、書記とみられる女性の土偶、支配者層の土偶、貴婦人の土偶、貴人の土偶 ※「貴人の土偶」は第1章にて展示予定

マヤ文明、 $600\sim950$ 年 ハイナ出土 メキシコ国立人類学博物館蔵 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

ユカタン半島のハイナ島では、王や貴族をはじめ当時の様々な役職の人々の姿を写した土偶が見つかっています。 その装いは、優れた工芸品や交易による品物で豊かに彩られています。

都市の交流 交易と戦争



える。ないないできょうない。

マヤ文明、600~950年 トニナ出土

トニナ遺跡博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Ignacio Guevara

猿の形相をした神の像で、猿が好んで食べるカカオの実の装飾が みられます。カカオ豆は飲料にするほか、スペイン侵攻時には通貨 として使われていたことが知られており、重要な交易品でした。

トニナ石彫171

マヤ文明、727年頃 トニナ、アクロポリス、水の宮殿出土 メキシコ国立人類学博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Archivo Digital de las Colecciones del Museo Nacional de Antropología. INAH-CANON

球技の場面を描いた石彫で、中央のゴムボールの上に西暦727年に当たる年がマヤ文字で記されています。球技をしているのはカラクムルとトニナの王で、両国の外交関係を示すものと考えられます。



貸出画像⑥

チチェン・イツァ マヤ北部の国際都市



チャクモール像

貸出画像⑦

マヤ文明、900~1100年 チチェン・イツァ、ツォンパントリ出土 ユカタン地方人類学博物館 カントン宮殿蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX

後古典期のチチェン・イツァやトゥーラで多く見つかる彫像で、アステカにも受け継がれました。腹の部分が皿のようになっており、供物や時には生贄の心臓が捧げられることもあったとみられます。



チチェン・イツァのグラン・セノーテ ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Héctor Montaño

カルスト台地の陥没穴に地下水が溜まった天然の泉をセノーテと呼びます。生贄や供物も捧げられました。本展では、 チチェン・イツァのグラン・セノーテ出土の供物を紹介します。

パカル王と赤の女王 パレンケの黄金時代

400~800年頃に隆盛した都市国家パレンケ。歴代の王は、お そらく18名とみられます。パカル王が埋葬された碑文の神殿(写 真左)をはじめ、美しい漆喰装飾で知られる神殿群は、かつて鮮 やかな赤色で塗られていました。



ゆうだん しんでん まう ほ こうしんでん きか じょまう ほ 神文の神殿(パカル王墓)と13号神殿(赤の女王墓)



貸出画像⑨

96文字の石板

マヤ文明、783年 パレンケ、王宮の塔付近出土 アルベルト・ルス・ルイリエ パレンケ遺跡博物館蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX

パレンケ遺跡の王宮で見つかった、パカル王以来の歴 代の王が即位したことが刻まれた石板です。日本のように、 優れた書跡碑文は芸術品として愛好されましたが、その 最高峰に位置するものです。



出土状況 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX

あか じょおう かんむりくびかざ 赤の女王のマスク・冠・首飾り

マヤ文明、7世紀後半 パレンケ、13号神殿出土 アルベルト・ルス・ルイリエ パレンケ遺跡博物館蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX. Foto: Michel Zabé

パレンケ13号神殿で真っ赤な辰砂(水銀朱)に覆われて埋葬されていた「赤の女王」。このマスクをはじめとする品々を身に着けていた墓の主は、パカル王妃であった可能性が指摘されています。





パカル王とみられる男性頭像(複製)

原品:マヤ文明、620~683年頃 原品:パレンケ、碑文の神殿、パカル王墓出土 メキシコ国立人類学博物館蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX

パカル王(キニチ・ハナーブ・パカル、 在位:615~683年)

12歳で即位し、戦争で荒廃したパレンケの 威信を取り戻しました。その繁栄は、息子の キニチ・カン・バフラム、孫のキニチ・アフカル・ モ・ナフブ、そしてひ孫のキニチ・クック・バフ ラムに受け継がれます。碑文の神殿に葬られ、 巨大な石棺の蓋のレリーフや埋葬時に身に 着けていたヒスイのマスクで著名です。

イシュ・ツァクブ・アハウ 発見時、真っ赤な辰砂に覆われて いたことから「赤の女王」と通称される。

[出身地]

ウシュ・テ・クフ

場所は特定できていない。 (おそらくパレンケの西にある小都市)

王

[配偶者]

キニチ・ハナーブ・パカル

[息子]

キニチ・カン・バフラム キニチ・カン・ホイ・チタム

キニチ・アフカル・モ・ナフブ

[ひ孫]

キニチ・クック・バフラム

底

[身長]

約154cm

[死亡]

672年11月16日

死亡推定年齢50~60歳。

骨粗鬆症を患い、

ほとんど歩けない状態だったとみられる。

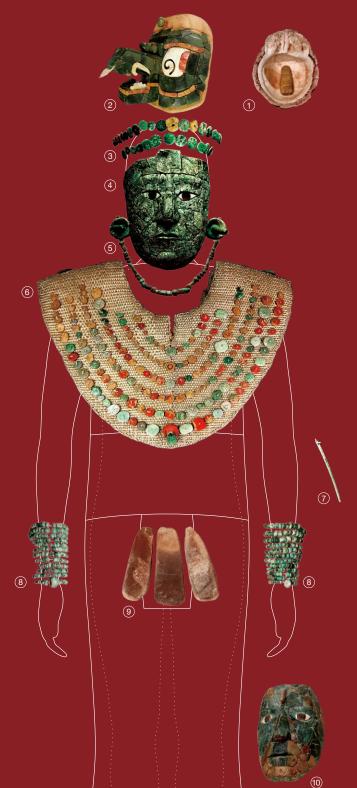


1994年4月11日、碑文の神殿(パカル王墓)に 隣接した13号神殿(写真右)から発見。 ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX

赤の女王は、一体誰なのか。パカル王墓の隣 に葬られたことから、王と関係の深い人物であ ろう。真相に迫るため、様々な調査が行なわれ た。骨のX線撮影と組織検査から体格や食生 活、病理と死亡推定年齢が明らかに。DNA分 析から王と血縁関係にないことがわかり、母で はなく妃である可能性が高まった。頭蓋骨から 顔の復元を試みた結果、石彫に描かれた王妃 の特徴と多くの一致がみられるという説もある。 碑文から名前、出身地、家族、死亡日など王妃 の情報が読みとれる。さらなる確証を得るため、 息子たちと孫、ひ孫の墓の発見が待たれる。

(以下の作品情報は右記①~⑪すべて共通) マヤ文明、7世紀後半 パレンケ、13号神殿出土 アルベルト・ルス・ルイリエ パレンケ遺跡博物館蔵

①、②、③~① ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX ②、③、③ ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Proyecto Arqueológico Palenque ③~③ ©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Michel Zabé



①貝、小像

赤の女王の頭部横で発見。貝殻 の中には、肉体が朽ちても女王と わかるよう、小さな肖像が置かれ

- ② 赤の女王の頭飾り
- ヒスイ輝石岩片103個、貝片11 個、石灰岩片37個からなる。おそ らく雨神チャフクを表現。
- ③ 赤の女王の冠 30以上のヒスイ輝石岩製円板

を二重に飾る。

- ④ 赤の女王のマスク マラカイト(孔雀石)片110個、黒
- 曜石片2個、白ヒスイ輝石岩片4 個からなる。マラカイトはヒスイよ り柔らかく加工しやすいので、より 写実的な表現が可能であった。
- ⑤赤の女王の首飾り 玉髄のビーズからなる。
- ⑥赤の女王の胸飾り

マヤの王族が身に着けたケープ。 170以上のヒスイ輝石岩の小円 板からなる。下部には太陽神を表 わすクモザルの頭の付いたバラ 形飾りがみられる。

7 針

胸元を留めていたと思われる。豊 穣と健康を司る織物の女神チャ ク・チェルを象徴するという説も。

- ⑧赤の女王の腕飾り 緑色岩のビーズ製で、12連にも なる。
- ⑨ 赤の女王のベルト飾り 手斧の形をした石灰岩製の板3 枚。マヤの王族はベルトで腰に 装着していた。
- ⑩ 小マスク

赤の女王の左手付近で発見。緑 玉髓片120個、黒曜石片2個、 貝片4個からなる。ベルトの中心 を飾るはずだったとみられる。

⑪赤の女王の足首飾り 辰砂の痕跡がみられるヒスイの 球状ビーズ。

アステカは14世紀から16世紀にメキシコ中央部に築かれた文明です。首都テノチティトラン(現メキシコシティ)は湖上の都市であり、中央に建てられたテンプロ・マヨールと呼ばれる大神殿にはウィツィロポチトリ神とトラロク神が祀られていました。アステカも他の文明の伝統を継承し、王や貴族などを中

心とする支配者層によって他の地域との 儀礼や交易、戦争が行なわれました。本 章ではアステカの優れた彫刻作品ととも に、近年テンプロ・マヨールから発見され た金製品の数々をご紹介します。



創建1390年頃、以来拡張を続け、 7層にも及ぶ大神殿。最終的には底辺100×80m、 高さ50mに達したとみられます。



貸出画像①

大国への道



アステカ文明、1469~86年 テンプロ・マヨール、鷲の家出土 テンプロ・マヨール博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor

テンプロ・マヨールの北側、鷲の家で見つかった等 身大とみられる戦士の像。王直属の「鷲の軍団」 を構成した高位の戦士、もしくは戦場で英雄的な 死を遂げ鳥に変身した戦士の魂を表わしていると いわれます。

神々と儀礼

トラロク神の壺

アステカ文明、1440〜69年 テンプロ・マヨール、埋納石室56出土 テンプロ・マヨール博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor

雨の神であるトラロクはメソアメリカで最も重要視され、 多くの祈りや供え物、生贄が捧げられた神です。水を貯 えるための壺にトラロク神の装飾を施すことで、雨と豊 穣を祈願しました。



貸出画像①



ひと しんぞうがた 人の心臓形ペンダント

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室174出土 テンプロ・マヨール博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor



^{すずがた} 鈴形ペンダント

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室167出土 <u>テン</u>プロ・マヨール博物館蔵

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Jorge Pérez de Lara



トラルテクトリ神形飾り

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室174出土 テンプロ・マヨール博物館蔵 ®Socontic do Cultura INAU MEY Muse of

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor



^{まきがいがた} 巻貝形ペンダント

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室125出土 テンプロ・マヨール博物館蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX. Museo o

©Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor. Foto: Jesús López



耳飾り

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室167出土 テンプロ・マヨール博物館蔵 ®Secretaría de Cultura-INAH-MEX. Foto: Jorge Pérez de Lara テスカトリポカ神と ウィツィロポチトリ神の<u>笏形飾</u>り

アステカ文明、1486~1502年 テンプロ・マヨール、埋納石室174出土 テンプロ・マヨール博物館蔵 ©Secretaria de Cultura-INAH-MEX. Museo del Templo Mayor



アンデスなど南米の諸文明とは異なり、古代メキシコでは金は大変珍しいものです。

最近の発掘調査で、神への捧げものとして生命力の象徴である心臓や、神々にまつわるモティーフが用いられた金製品が見つかっています。

開催概要

展覧会名:特別展「古代メキシコ ―マヤ、アステカ、テオティワカン」

会期:2023年6月16日(金)~9月3日(日)

会場:東京国立博物館 平成館

開館時間:午前9時30分~午後5時

※8月11日(金・祝)から9月2日(土)までは金曜日・土曜日・日曜日は午後7時まで ※9月3日(日)は午後5時閉館

※総合文化展は午後5時閉館 ※いずれも入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日、7月18日(火) ※ただし、7月17日(月・祝)、8月14日(月)は開館

主催:東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

協賛:NISSHA 協力:アエロメヒコ航空 後援:メキシコ大使館

企画協力:メキシコ文化省、メキシコ国立人類学歴史研究所

展覧会公式サイト: https://mexico2023.exhibit.jp/ 展覧会公式Twitter:@mexico2023_24 お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)

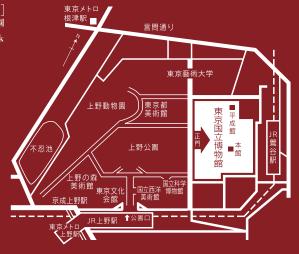


東京国立博物館「平成館」

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト https://www.tnm.jp/

- ●JR 上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、 東京メトロ千代田線根津駅、 京成電鉄京成上野駅より徒歩15分



※作品はすべて通期での展示を予定しています。

- ※入館方法、観覧料金等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。
- ※展示作品、会期、展示期間、開館時間、休館日等については、

今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。

報道関係お問合せ

特別展「古代メキシコ ―マヤ、アステカ、テオティワカン」 広報事務局(共同PR内) 担当:三井、瀬島 〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階

TEL: 03-6264-2382 E-mail: mexico2023-pr@kyodo-pr.co.jp

巡回情報

[福岡会場]

会期:2023年10月3日(火)~12月10日(日) 会場:九州国立博物館

主催: 九州国立博物館・福岡県、NHK 福岡放送局、NHK エンタープライズ九州、西日本新聞社、 西日本新聞イベントサービス、朝日新聞社

[大阪会場]

会期:2024年2月6日(火)~5月6日(月·休) 会場:国立国際美術館

主催:国立国際美術館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、朝日新聞社







